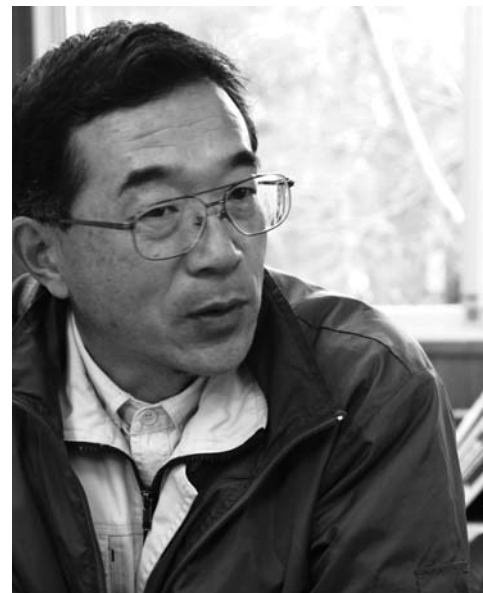


常に前向きな姿勢で頑張ってくれた



協力隊の主な活動場所「農林業センター」

花房則告^{のりつぐ} 場長

神東さんの第一印象は「落ち着いていて、どことなく安心できる子だな」というものでした。毎年そうなのですが、本町に派遣される隊員の子たちは、4月頃に来て、すぐに新茶の時期を迎えます。茶工場などで手伝いをして、全国茶品評会用の作業を手伝って、農林業センターでの仕事を始める。正直、訳も分からないうちに1年のピークを迎えるわけですから、かなり大変なことです。また7、8月頃の最も暑い時期の草取りもそうです。きっと炎

天下での作業はきつかったと思います。それでも文句一つ言わず、常に前向きな姿勢で頑張ってくれました。神東さんは「外の視点」を持っている子ですから、こちら目覚めるような思いを何度もしました。指摘され、初めて気が付くことも多かったですね。この町にとって、必要な人材だなと思います。4月以降も町に残る予定だと聞き、本当にうれしく思っています。これからも、その視点で、町を明るく変えていってほしいですね。

これからの活躍がとても楽しみです

茶茗館では主に「呈茶」という接客の仕事をしてもらいました。神東さんは飲み込みが早く、一度教えたら即実践できる子なので、すごく助かりました。接客にマニュアルはありませんから、その都度、臨機応変に動く必要があるんですが、彼女は応用力・適応力にも優れていましたから、任せても安心でした。川根茶のことは何も知らなかったと思うけれど、今ではとても頼りになるスタッフです。秋頃のことでしょうか。本人の口から「協力隊の期

間が終わっても本町に残り、まちづくり活動などに関わりたい」と聞いた時は素直にうれしかったです。人と接するのがとても上手だし、人前に出ても堂々としています。そして客観的な目を持っている子です。この町にずっと住んでいる私たちが「これは当たり前」と思っていたことが「本当は当たり前じゃないんだよ」と教えられることもしばしば。本町にとって、必ずプラスになる子だと思います。これからの活躍をとても楽しみにしているんです。



協力隊の主な活動場所「フォーレなかかわね茶茗館」

黒田佳代子^{かよこ}さん



千頭駅前のRenで開催された「川根女子BAR」。幅広い年代の女子13人が集い、みんなで持ち寄った飲み物や料理を前に語り合った。

川根女子部 女子のチカラで川根本町を元気に！ 初の企画「川根女子BAR」で交流の機会を

「川根本町を元気にしたい！」と考える女性が集まり、さまざまな活動を展開していく予定の川根女子部。「まずは自分たちが楽しく笑っていよう」をモットーに、人が動く、人が集まる企画を検討しています。2月上旬に開いた食事会&ミーティングでは、女子6人が集まり、ワイワイ楽しく、今後の活動について話し合いました。一人じゃ思いつかないことも、みんなと一緒だといるんなアイデアが出て、実現できるような気がしてくるから不思議です。

川根女子部初の企画となる「川根女子BAR」は3月4日、千頭駅前のコミュニティスペースRenで開催しました。本町在住の女性13人が来店し、ドリンクや料理を持ち寄って会がスタート。ゲームをしたり、古里に寄せる思いを語り合ったりと、楽しい時間は瞬間に過ぎていきました。

女子4人の思いつきから始まった「川根女子部」が、今や13人になりました。ほかにも関心を寄せてくれている人がいるようなので、

もっともっと人の輪が広がっていきそうな予感がします。

「近所に住んでいて会うことはあっても、じっくり話す機会はなかった。こういう場ができて本当にうれしい」「ついに本町にもこういう若い人たちが出てきてくれたかと思うと心から応援したくなる」「都会で遊ぶのも好きだけど、田舎も大好き。川根だからできることを楽しみたい」といった声にもあるように、みんなそれぞれの思いを抱えて本町で暮らしています。その思いを知ることこそ、川根女子部の原点ではないでしょうか。

趣味は何かと聞かれたら「川根女子部です」と言えるように。みんなが無理のない範囲で楽しみながら、周りをちょっとずつ巻き込みながら…。住民の目に見える活動をして「今日も女子部が頑張ってるな」って思ってもらえればいいなあ。

一過性のもににするのではなく、今後も一緒に活動してくれる女子を募集しながら、息の長い活動を展開していきたいですね。



▲新メンバー2人を加えての食事会&ミーティングの様子。今後の方向性などを話し合う。
▼女子部の頑張りを住民みんなに見て欲しいと意気込みを語った美希さん



ヒトの魅力@かわねほんちよう
—ブログ—
川根本町のことをもっと知りたい、町を知るには、まず「人」を知ることからだという思いから始まった「ヒトの魅力@かわねほんちよう」。N

町内外に向け発信し続けた

「誇り」

回覧板やインターネットといったメディアを使って町の魅力を発信し続けた美希さん
そんな活動の一端に触れる



PO法人ツナグチカラの武藤喜彦さんと共に企画し、町民への取材活動を続けてきた。地域で頑張っている人、輝いている人などにインタビューし、その人の魅力を伝える。和気あいあいとしたインタビューの様子が伝わってきて、読み手の興味を引く内容となっている。
現在、これまで取材し書きためてきた記事を取りまとめ、卒業記念として「文集」の制作に取り組んでいる。
カントリーロード
番外編
—回覧板—
本紙の裏表紙に毎月連載しているコラム「緑のふるさと協力隊員神東美希の奮闘記カントリーロード」の回覧板用の書き下ろし。広報紙上では伝えきれない活動の報告や出会った人々との触れ合いの様子、広報ではちょっと書けない率直な気持ちなどが、豊富な写真を交えてつづられている。毎月1回、A4のかわね版が各戸に回覧されており、楽しみにしていた人も多かったようだ。本人への反響もかなりあったという。